

情報

交流ひろばと生活情報

NPO法人化で英語教育を改革へ

SSH英語教育研究所



長年、英語教育に携わってきたポール・ヴァル・グリーシー博士（阿蘇村河陽）や、同じく矢ノ下良子さん（熊本市長嶺東2丁目）らはこのほど、熊本市流通団地1丁目の九州東邦熊本営業所の会議室で、SSH英語教育研究所のNPO法人化の設立総会を開催した。SSHはSound Spelling Harmonyと呼ばれる英語音声の教授法。児童から中高年に至るまで、学ぶ人教える人を対象に、「日本の英語教育に欠けていた英語の音声面の学習や指導で通じる英語を話す」ことを可能にしようという関係者が集まり、今回の法人化となった。



理事長に就任したポール・ヴァル・グリーシー博士



副理事長の矢ノ下良子さん



副理事長の興津暁子さん

大学・短大合同の同窓会

青山学院校友会熊本支部



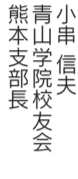
青山学院校友会熊本支部（小串信夫支部長）はこのほど、熊本市南坪井の「GRILL de GYAN」で2011年度支部総会を開催した。当日は谷本伸也青山学院女子短期大学学長、薦田博青山学院院校友会副会長を来賓として迎え、大学・短大あわせて約30人が参加した。



青山学院女子短期大学学長 谷本伸也



青山学院校友会副会長 薦田博



青山学院校友会熊本支部長 小串信夫

寅年生まれ30人集まり世代を超え交流

熊本とら会



寅年生まれの人たちの世代を超えた交流を図ろうと、1979（昭和54）年に発足。現在のメンバーは約80人。このほどあった年1回の定例会には約30人が出席し、26（大正15）年生まれの笹原弘（榊建吉組会長が「会での人とのつながりを大切に、出席者、そして熊本の発展につなげよう」とあいさつ。和やかな雰囲気の中、情報を交換し親睦を深めた。

65歳を節目に合同同窓会

熊本市立桜山中学校第13期卒業生



熊本市立桜山中学校の第13期卒業生（昭和37年卒）はこのほど、熊本市城東町のアークホテル熊本で合同同窓会を開催した。

今年度65歳の節目を迎えることで3年ぶりに開催したもの。当日は恩師の坂田深さん、鎌尾（杉本）道子さん、土山末人さんの3人に加え、九州学院の長岡立一郎理事長を来賓に迎えた。伊東隆三・伊東歯科口腔病院副院長の開会の辞に始まり、欠席者からのメッセージ紹介、各組の出席者がそれぞれ近況を含め自己紹介。終始旧交を温め盛會に終了した。

ぐる〜が訪問

シリーズ コミュニケーション講座
魅力ある人間力アップに向けて (第6回)

人はひとりでは生きて行けません。さまざまな形で支えあって生きています。それぞれが持つエネルギーを見つけ、見守り、引き出す。コミュニケーションは、人と人をつなぐ原点ともいえます。家庭、職場、近所付き合い、友人との付き合い、その全てがコミュニケーションであり、人生を楽しむこと、エネルギーアップにもつながります。ここではさまざまなコミュニケーションのとり方についてアドバイスします。

【今月のテーマ】
「子どもから教えられたこと」

津川 育子
コミュニケーション
アドバイザー

子育ての中で、親は子どもに、挨拶の仕方、箸の持ち方、着替えの仕方など、たくさんを教えています。けれど、実は、そんな日々の中で、私達親は、子ども達から同じくらいたくさんを教わっているのかもしれない。先日、ある方（Sさん）から、彼女の息子さんとの会話を聞き、感動を覚えました。

Sさんは、息子さんから「学校へ行きたくない」という言葉が子育てに真つ正面から向き合うきっかけになったそうです。最初は、何故かと自問自答を繰り返したり、学校の先生に話を聞きに行ったり、カウンセラーの先生に相談したり、彼女は、家族でも話しあい、たくさんたくさん悩みました。

「学校へ行かなくなったら、周りにいろいろ言われ、辛い思いをするのは貴方よ」

息子さんがこのまま学校へ行かなくなることが不安でいっぱいある日、彼女がそう言うと、息子さんは真つすぐに顔を見て、こう言ってきたんだそうです。

「僕は構わないよ。周りを気にしているのはお母さんでしょ」

この言葉を聞いた時はドキリとしました。「せめて高校だけは出て欲しい」「大学に行かないと苦労する」子どものために、子どもの未来のためにと思いが口に出す

親であつても、一人の人間です。自分の歩んできた人生があり、そんな中で築いてきた価値観があります。自分の子どもがその価値観から外れてしまった時、時に私達親は、さも自分の言葉が一番正しいかのようにならざるを得ない。子どものわがままとして苛立つてしまうこともあるかもしれません。けれど、それはわがままではなく、子どもが自分の人生を歩む中で見つけた、彼自身の価値観なのかもしれません。だからこそ、自分の価値観を押し付けるのではなく、しっかり話しあい、互いの想いを理解しあえるようにしたいですね。

Sさんがおっしゃいました。「自分の道を歩み始めた息子さんの旅立ちの時、これから起こる事を不安がるより、今を一生懸命楽しむ事の方がずっと素敵で素晴らしい事を教えてもらいました」と。

（筆者プロフィール）「コミュニケーションアドバイザー」大学卒業後、二子学館、近代経営研究所などの勤務を経て平成10年10月人財育成サポートを設立。22年2月に法人化。子育て、親子のコミュニケーションの勉強会、講座を随時開講。熊本県民力レックス主催講座サテライト教室子育て応援講座などの講師も勤めて。県内各地での講演も多数。美里町教育委員。子どもは3人。著書として「愛の小箱」夫婦の間病と家族模様がある。

【問い合わせ】
☎096-342-9733
ikuko.t@eagle.ocn.ne.jp